

議長（山本 陽一郎君） 日程第1、一般質問を行います。

順番に、発言を許します。

5番、中村充男議員。

5番（中村 充男君） おはようございます。

ここの議場にお送りいただきまして、早や2年がたちました。マラソンで言うならば、もう折り返し地点でございます。この2年間、回あるごとに質問し、ご提案を申し上げてまいりましたが、遅々として私の提案の問題が解決されておられません。

例えばガラスハウスで廃油を精製したい、こういうお願いをしましたが、今回また取り上げていただいておりますが、2年おくれてしまいました。あそこもだめだった。そしてまた、あのガラスハウスを利用して、不登校の生徒・学生を集めてアニマルセラピーで犬を1匹ずつ与えて、野菜や花をつくって社会復帰、学校へ復帰するのを1日も早く進めたい。そして60万円の地代も払わせていただくがどうか、この提案もだめでございます。

提案するものみんなだめでございます。反対してまいりました笹尾西小学校の前の学童保育所建設に当たりましては、反対したにもかかわらず、もう建設にかかっておられる。おかしいことございまして、どこの歯車が違っているのかな、こういうふうなことを思わせていただくわけでございます。

自慢ではありませんが、私は水飲み百姓のこせがれでございます。頭の中のコンセプト、心の中のコンセプトは、もったいない、使えるものは使ったらいいじゃないか、ちょっと手直しして使えるものは使ったらいいという前提に立ちまして物事を申し上げておまして、大きな予算、金が要るというような提案はしたつもりは毛頭ございませんが、あにはからんや、そういう結末となっております。

今回また1つ2つご提案を申し上げますので、真摯な態度で受けとめていただきまして、真に検討していただきますようお願いをいたします。

まず、町長にお尋ねをしたいと思いますが、東員町を取り巻く環境は、日に日に刻々と変化をいたしております。例えばネオポリスの西の道をずっと上がっていきますと斎苑の入り口あたり、先般、共産党の上原議員より深い質問がございました。その質問よりも深い大きな穴が空いておまして、一体この穴は地球の底まで掘っ

ていくんじゃないかと、このような大きな穴がありました。ところがいつの間にか何らかの形で埋め戻しがされておる。一体どんなしるもので埋め戻しがされたのかな、こういうふうには思っておりました。

あの下には店もあり、民家もあり、田んぼもあり、ため池もある。果たしてどういったもので埋められたのかなと思っておりましたが、上原議員の質問に環境部長の方から、るる説明がございました。しかし、あれは業者の帳面から見ると、改良土で埋め戻したということでありましてということで、砒素が多少入っているものの何ら問題はないと、こういう回答でございますが、業者の書類に残土とか産業廃棄物で埋めた、そういうことを書く業者がいるわけがありません。相当深い、何十メートルも掘った穴の埋め戻した後の表土を採って検査をした。何の意味もないと私は思っております。

そして片や城山の東の道をおりてまいりますと、弁天山の神社の前に、木を伐採するという申請のもとに大きな穴がまた空いております。一体これは何だろう。そしてその下のハイブリットパークということでございますが、このハイブリットとか改良土とか、言葉のあやで非常にすばらしく聞こえる。土地改良とか車を改良したという、よくなったような気がするわけでございますが、改良土という言葉にあやがある。ハイブリットという言葉にあやがある。

ハイブリットの車というと、エコカーで余り油が要らない、音が静かだ、すばらしい車だというイメージのもとに、ハイブリットパークというふうなイメージで考えてしまいますと、これは造成当初から多少問題がありまして、視察をさせていただきました。その際に、実はここは切ってはならない木を切ってしまいました。保安林か防風林か知りませんが、その木も切ってしまった。町や県に申請もせずに伐採をしてしまう。黙ってやってしまうこと。これがハイブリットパークかな。

そう言いますと、私事でございますが、私の息子は20年も前からハイブリットでございまして、夜中いつ帰ってきたか、朝いつ出ていったのかわからん。ときたまつかまえては、一体おまえ、こんな時間までどこへ行っておった、だれと何をしておったということをしかってまいりました。こういう穴を掘って何で埋め戻したか、このしかりもない。

そして今年1月24日に開かれました環境審議委員会で、私が冒頭この旨を申し上げますと、担当課の方から、あれは県がやっていることや、県やでと、こういう答弁でございまして、そうしましたら環境審議委員の皆さん、異口同音に何を言っ

ておるのやと、三重県やら県やらって、あそこは東員町の場所と違うのかとおしかりになりました。

そこで町長、今回の所信表明の中にも、常日ごろのごあいさつの中にも、安心と安全のまちづくりと、こういうことを常におっしゃっておられますが、こういった職員の考え方や答弁の中身を聞かれまして、安心と安全のまちづくり、どのようにお考えか、お聞かせをいただきたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） おはようございます。

きょうもよろしく願いいたします。

中村議員の安心と安全のまちづくりの実効性についてのご質問にお答えをいたします。

私が公約に掲げております4つの主要施策、「安全・安心のまち、教育振興のまち、信頼されるまち、元気なまち」につきまして、町民の皆様の幸せのために、誠心誠意努力してまいりました。

その一つであります「安全・安心のまちづくり」では、今年度は15歳までの医療費の無料化をはじめ、乳幼児インフルエンザの予防接種の助成事業、放課後対策事業など、また災害に強いまちづくりとして、防災倉庫への災害用備品の配備、交通安全対策として、危険道路の改良や歩道の整備など実施してまいりました。

今後も引き続き町民の皆様の目線に立った町政を運営してまいりたいので、ご理解賜りたいと存じます。

次に職員の危機管理意識についてでございますが、いわゆる「危機」とは、町民の生命・身体・財産を脅かす重大な事態、町の行政運営・行政サービスに重大な支障を及ぼす事態と考えております。

この危機を未然に防止し、また、発生したときに被害を最小限に抑制するための危機管理が必要とされております。職員には、自身の仕事に隠れている問題点や課題などを把握し、常に危機管理意識を持って業務に当たるよう指示をしております。

いずれにいたしましても、危機への対応は危機管理担当部局にとどまるものではなく、全庁的な取り組みが必要でございまして、平時から職員全員が高い意識を持

って危機に備えることが重要と考えておりますので、長期的な視点から危機管理体制の実現に取り組んでまいりますので、ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 中村充男議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。どうぞかけ声に終わらずに、今、安心と安全のまちづくりとか少子高齢化とか、言葉は非常に今のタイムリーなリアルタイムな話でございますけれども、じゃあそれをどうするのか、どこで管理をしていくかということ、ひとつ地に足をつけて、町民の皆さんの安心・安全のためにご配慮を賜りたいということをお願いをいたしまして、2つ目に移ります。

教育長にお尋ねというよりお願いでございますが、文化会館のひばりホールのイベントでございますが、ずっと私、見させていただきました。教育長もかわられた。教育課長もかわられた。担当が皆さん、ヘッドもかわられて、そして事務局長なるポストはなかったけれども今ある。人のためにポストがつくられるのか、何か仕事をするためにポストをつけるのか、これはさておきまして、皆さんかわられて、以前、私は前の教育長の時にお願いをしたんです。

実は羽田健太郎というすばらしいピアニストがいらっしゃいまして、3人ほどピアノの演奏がありました。その時は券売率が3分の1以下、3分の2の席が空いていた。そして役場の担当の方が4～5人、上の方で見ておられた。あの空きスペース、私は前の教育長にお願いしたのは、1週間前、5日前、3日前と、きめ細かく券の売れ行きを見て、これだけの席が空いていたら今回は神田小学校、今度は稲部小学校というふうに、生徒や学生たちをあそこへ。あんなすばらしい演奏、もう羽田健太郎さんは亡くなりました。こういう演奏は聞けません。だからああいう空き席に、順番にでもいいから、満席近いほどに埋めて、文化の教育のためにやってほしいというお願いをしました。

ところが今年1月31日、東京プラススタイルという女性11名のすばらしいプラスバンドの演奏というよりステージングでございました。これを見させていただいて、すばしかなかったけれども、あの券売率も私が見渡しますと約50%、あとの50%のところ、何とかこれ、どこかのプラスバンド、東員町中学校も第1・第2、プラスバンドをやっているのに、この人たちに招待が何かできなかったものだろうかと、思わせていただいたわけでございます。

第2部ではいなべ総合学園のブラスバンドの皆さんとのジョイントのコンサートをされました。非常に喜んでみえたような気がいたします。すばらしかったです。最後は総立ちでございました。けどもあれだけ席が空いていると、私も名古屋のライブハウスでたまに演奏させていただいております。5人や10人の客の前でドラムを叩くより、満席近い人が入っていると、やっぱり乗りに乗って、もう1曲やろうかなというようなアドリブが出てくるわけですが、人数が少ないと、そういうような雰囲気になりません。

そして先般、美し国の駅伝がございましたが、私、所用で、午前中どうしても抜けられなかった。昼から春の音楽祭が何かをやっておりまして、文化会館の方へ出かけて見させていただきました。女性コーラスとか、いろいろすばらしいコーラスがありました。

黙って聞いておりますと、ここが東員町の文化会館やろうかと。何かフランスのポンピドーの文化センターにおるような、東員町におりながら、すばらしい歌声を聞かせていただきました。

そこでもやはり第2部で、東員第一中と第二中のブラスバンドとのジョイントコンサートがありました。私はその部長と一緒にラッパを吹いておりましたが、私の時の中学校のブラスバンドと違って、すばらしい演奏でございましたが、何か一つスパイスが足りない。このスパイスは、ああいうブラススタイルのような演奏を聞き、見て、そういうものが教育となるのじゃないかと。だからあれもやっぱり教育のために、席を埋めてほしかったなと思うわけでございます。

きのうの春の芸能祭ですか、これもまた、東員町出身のトルーパーというメンバーのすばらしい歌声に老若男女すべてがステージとホールで踊って、すばらしい東員町のパワーを見せつけられたような気がいたしました。すばらしい空間でございました。

こういった文化会館の使い方がどうも、今度3月17日に三船和子さんがいらっしゃいます。東員町でNHKののだ自慢をされた時のゲストでございまして、これも私、頼まれて100枚ほど券を裁かせていただきました。ほかのところ売れてないのか、またたくさん券を持ってきて、頼むに売ってくれと、こういうことでございまして、これ以上私も売れないものですから、四日市のカラオケ喫茶のママさんやマスターに、四日市から私のマイクロバスで送迎させてもらうから券を売ってもらえないかということをお願いして、17日は送迎をさせていただくわけでございます。

そしてやっとかさ売りましたが、この間、スーパーに買い物に行きましたら、2,500円のところ1,000円に割引くという券が入っておりまして、私はちょっと詐欺をしたような気分になってしまいました。2,900円で購入してもらっているのに1,000円で売るという割引券が置いてあった。文句を言いましたら、ここに手紙が来まして、まことにもうしわけないと。こういうことで後ろの方を1,000円で販売させていただくことにしたと。やはり満席にした方が雰囲気もいいし、すばらしい。一般の今回の公演を大盛況に終了させるために、ご理解とご協力をお願いしたいと、こういうおわびの手紙が来ました。

一般の企業は、このような企業努力をいたしております。何か2,900円をお願いしてきた券が1,000円と。もっと後ろでございますけど。張り合いがないけれども、このように一般企業は努力しております。自主公演をやったときの東員町、空いてたら空いてたまま、それはちょっともったいないのではないかと。ですからそれ相応に1週間、5日前、3日前、徐々にどこのグループを幾らで、無料で、そのようなことは、100人で聞いたり見たりするのも、700人で聞くのも同じ値段なら、あそこで雰囲気よく、満杯にしてあげてほしいなというふうに思わせていただくわけです。

この間の桂三枝さんの場合は、120パーセントぐらい入っているのではないかなと眺めておりましたが、聞いてみましたら91%だと。惜しかったねということでございますが、どうかひとつ、このようなことを私は考えておりますが、何かそれではちょっとまずいという意見がありましたら、教育長、今後の方針をお聞かせいただきたいと思えます。

お願いします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） おはようございます。

中村議員の総合文化センターひばりホールでのイベントのフォローアップについてのご質問に、お答えをいたします。

総合文化センターひばりホールでの自主事業は、文化・芸術を振興するという公立文化施設の使命と役割を果たすため、幅広い方々のニーズにこたえるべく、さまざまなジャンルのイベントを提供し、開館以来多くの方々にご来場をいただいております。

しかし、その一方、その実現のためのイベントのジャンルによっては、入場率が低くなるリスクも負わなければならない現状もあります。

このようなことから、ご指摘いただきましたように、開催するイベントによっては、思うように売れ行きが伸びない企画もございます。このようなイベントに対して、少しでも入場率を上げる手法として、ご提言いただきました学生や各種関係団体等の方々を招待し、満席に近い状態にする方法は、イベントのジャンルによっては有効な手段と考えております。

今後も公立文化施設の使命と役割を果たしつつ、ご提言いただきました手法を参考に公平性や公正性も確保され、入場率向上につながる手法を考えてまいりますので、ご理解賜りますように、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村充男議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。

これも言葉でかけ声倒れにならないように、ひとつきめ細かには把握をさせていただいて、対処していただく。何も三船和子さんの演歌を小学生に招待しろと、こんなような野暮なことは言いませんけども、自主事業でこれはすばらしいということは、ひとつ皆さんの文化の発展のためにも、よろしくお願ひしたいと思います。

今まで2つは前置きでございますが、3つ目、先般発表されました今度の夏の参議院選挙から、投票所を統廃合するということを申されました。

例えば神田地区におきましては、鳥取や穴太の方もそれぞれの投票所ではなくて、神田の東員保育園の方へ来ていただく、稲部の大沢でも稲部小学校の方まで行っているんだと、当たり前やという方もいらっしゃるんですが、神田地区は鳥取・六把野、非常にアパートが建ってきてまして、どんどん人口が増加しておるわけございまして、そして、またこれも町長が常日ごろ高齢化のためにとっておられながら、高齢化になるのに遠いところまで投票に来てほしいと。これはいかがなものかなと思うわけでございます。

そのメリットは何かとお聞きしますと、100万円ほど経費が節減できる。100万円というと、ためるのは大変やと思うし、なかなか私もようためませんけども、

町の財政から100万円を削減するために、投票所を統廃合して少なくする。高齢化に反対になっていくような投票所の設置はいかがなものか。

そしてまた、天気がよければこの夏、子どもたちを海水浴場に連れて行ってやろうかなと思って投票所に来たけれども、駐車場が狭くて、なかなか車をとめるところがない。もういいか、投票せずに子どももグズグズ言うし、このまま海へ走っていくかということで、だれが参議院になろうか、こんなもの、子ども手当がもらえやんようになるとか、そんな関係ない。こういうふうに思ってしまうと、次に東員町の町長選挙、我々の町会議員の選挙もごさいます。これにも投票率や何やかや影響しないかどうか、ということ懸念している者でございませう。

そしてもう1つは、選挙管理委員会というものがございませう。選挙管理委員会って一体何の仕事やろうと。当選させていただいた我々に当選証書を渡していただくだけ。それなんやろうかと。

実は私、非常に疑問を抱いております。前回、私が立候補させていただいた時に、ポスター掲示所の一覧表とか、いろいろこういうものをいただいてまいりました。そして今の投票所の第1投票所、第3投票所は時間的にどれだけのパーセンテージみえたかというの、一覧表でもらっているのです。やはり穴太・鳥取、朝早い人が多いのか、朝早くは割合と投票が多い。六把野の人より多いのです。この多い投票所がなくなってくると、どうなってくるんだろうという心配もあります。

実は我々立候補させていただくときに、立候補予定調査票というものをいただいて、これを提出するわけですね。ここには名前と選挙のための名前、生年月日、そして選管に届け出る党派、今回選挙で新旧別、それから無所属の場合は最も近い政党名を書くと、それから代表的な職業は何をしているか、現職か元職か、どういった経歴を持っているか、出身学校はどこか、そして出身地はどこか、選管への届け出の住所はどこか、事務所はどこか、全部ここに記入して提出しなければなりません。

ところがこのように当選させていただいて、載ってまいります新聞を見ますと、非常に残念なことに、経歴、学歴に疑いのある方が平成4年の選挙から5回、こういう一覧表をいただきました。ここに赤で書いてあるのは、皆さんおかしいなと。

亡くなられたAさんは某大学中退と書いておられたのが、いつの間にか大学卒業になっている。やめられたBさんは、平成12年度と平成16年度、違う高等学校

の名前が書いてある。高等学校を2つも卒業されたんやろうかという疑問があります。大学の場合は2年でやめて違う大学へ、また移るとい人もいらっしゃいますが、高等学校を2つも出ている、そして高等学校中退の方が高校卒業にいつの間にかなっている。きわめつけは、入学した形跡がないのに卒業証書がある。こういう方もいらっしゃいます。このすべて15名の町会議員の中で4名も、多い時にはいらっしゃった。今は2名。

こうしたものを選挙管理委員会に調べてほしいと申しましたところ、選挙管理委員会の関知するものではない、司直の手に委ねてほしいということでございまして、そのような手続を取っているわけでございます。

私は経歴・学歴を、選挙に出るには有利に計らいたいと思って、よく見せようという気持ちはよく理解できる。しかし、これが選挙管理委員会が別にうちは関係ないと言われるのであれば、何でこんな罪をつくらなければならないような書類を出さなければならないか、ということに疑問を抱いております。

何も中学校卒業でも町会議員に立候補できるんだ。大学、高校、どうでもいいやないかという人もおります。おりますが、おられるけれども、私はそんな学歴関係ないからこそ、人間性の問題を思うわけでございまして、やはりうそはいかん。うそも百遍つくると本当になってしまうということを知ったことがあります。うそを言って選挙に出て当選をしてきた。それぞれ皆さん、この4名は議長経験者ばかりです。

私は前回いただいた候補者運動員のために、こんなすばらしい冊子をもっております。その25ページに「選挙犯罪に該当する行為」、公職選挙法第16条罰則に規定されている選挙犯罪、すなわち買収、利害誘導、自由妨害、次です。虚偽事項の公表等、選挙の自由公正を害する行為は当然禁止されておる、このようにうたってあります。

ところが選挙管理委員会ではどうしようもない、警察に訴えていただくしかない、こういうことであれば、こんな選挙に立候補するのに、こんなにいろいろどうでもいいような書類を出させることは、人に罪をつくることになるのでやめてみたらどうか。選挙管理委員会といえども、役場の総務課がほとんど対応をなさっておられるので、その辺、町長はまじめ過ぎるほどまじめな方で、こんなことは調べさせてもらったことがありますけども、何もうそはない。真正面の真正直、正直過ぎるぐらいのことをされておりますので、私、町長にこんなことをお伺いするのはいささ

か心が痛むわけですが、町長、これについてどのようにお考えでしょうか、お聞かせいただきたいと思ひます。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） 選挙に関するご質問にお答えをさせていただきます。

選挙管理委員会は、国や地方公共団体の選挙に関する事務を管理するために、町長の私から独立した機関として設置されておりますところですが、町政をお預かりいたします立場から、投票区統廃合についての思ひを申し述べさせていただきます。

現在東員町は10の投票区がございますが、これを小学校区ごとの6つの投票区に統廃合されるものでございます。ご承知のとおり、稲部、笹尾西、笹尾東、城山地区はこれまでも小学校区ごとの投票区でございまして、有権者数は稲部で2,300名、笹尾西で3,200名、笹尾東で3,800名、城山で4,300名ほどでございます。その反面、神田校区では筑紫、穴太、瀬古泉地区で1つの投票区、山田、六把野新田地区で1つの投票区、鳥取地区で1投票区の合計3つの投票区が設けられております。同様に三和校区でも、南大社、長深、中上地区のそれぞれが1投票区で合計3つの投票区でございます。

ただいま申し上げました投票区の有権者数は800名から1,800名程度でございまして、町内すべての投票区ごとの有権者数、自治会の区域や日常生活などを踏まえまして、投票区の公平性を図りつつ、選挙人の便宜を考慮し、慎重に統廃合を検討されたものでございます。

予算執行者の私といたしましては、国の事業仕分けで選挙に関する事務委託金も削減される中、執行経費の削減とサービスの平準化に向けた投票区の統廃合は、その時期を迎えたと考えております。一部の選挙人の方には大変ご不便をおかけするところもあるかと思ひますが、ご理解賜りますようお願いを申し上げます。

なお、詳細につきましては、総務部長から答弁をさせます。

議長（山本 陽一郎君） 藤井浩二総務部長。

総務部長（藤井 浩二君） ご質問にお答えを申し上げます。

ただいま町長が申し上げましたとおり、選挙管理委員会は選挙に関する事務を管理するため、町長から独立した機関として、選挙が公正に行われるよう設置されております。

投票区の統廃合の功罪と申しますか、まず、よくなるどころといたしましては、新しい6投票所の幼稚園・保育園はバリアフリー化されておりますので、車いすでの乗り入れや土足での出入りが可能となり、ご高齢の方や、だれにでも優しい投票

所になると考えております。

また、これまで自治会の集会所をお借りさせていただいておりましたが、幼稚園・保育園への変更により、自治会の負担が解消されるものであると考えております。

執行経費におきましても、人件費やポスター掲示場設置委託料など、削減が可能となります。

しかしながら議員が申されますとおり、投票所までの距離が遠くなられる方もお見えになり、ご負担をおかけすることとなりますが、期日前投票制度などご利用いただき、ご理解・ご協力を賜りたいと考えております。

また、「立候補者の経歴等調書」でございますが、報道機関からの問い合わせ等に対応するために任意に提出をいただいているものでございまして、ただいまちょうだいいたしました意見等につきましては、選挙管理委員会に申し伝えますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長（山本 陽一郎君） 中村充男議員。

5番（中村 充男君） ありがとうございます。

最後の問題にもっと時間をかけたいと思っておりましたが、今、バリアフリーで車いすも乗り入れやすいと、こうおっしゃったんですけど、飲酒運転が厳しくなりましたね。四日市や桑名のタクシー会社は、これからは車に乗ってこないで、タクシーもうかるとっておったところが、どうも飲みにくる客が減ってしまって、タクシーもちょっと待ち時間ばかりだと。

たまに名古屋へ誘われて私も飲みに行くんですが、四日市からタクシーに乗って名古屋まで行くと、四日市からのタクシーの運転手が、待たしていただきませんか、2～3時間飲んでいいる間、待っているんです。今から帰ってもこれだけもうけがない。大体片道1万8,000円から2万円かかるんです。高速代がありますから。幾らでも名古屋に待っているタクシーがいるから、思ったところで乗れるんだけど、四日市から行ったタクシーが待たしてくださいというのです。これは今のバリアフリーにしても、遠いところになったら、そんな選挙に行かないのではないか。このタクシーと同じようなことにならないかということで、私は懸念をいたしております。

町長が安心・安全のまち、そして少子高齢化、子どもを産むために東員町へ来てもらって家を建ててもらったら40万円あげる。いろいろ今回から四苦八苦されたものがあるんですが、一回40万円もらえるから東員町へ家を建てようという人はどれだけいらっしゃるだろうかな。ないよりあった方がいいです。ところが役場に

来て手続をしていたら、何か知らんけど40万円くれるという話やで、ラッキーという感じでもらえると。それぐらいの効果しかないのではないか。

根本は平和で豊かだから子どもができない。平和で豊かだから子どもをようけ産んでもいいと思っていたのが、昔のことわざに、貧乏人の子たくさんといひまして、もう四苦八苦していた方が、テレビをつけると電気代がもったいないので、早く寝て子どもができてくる。貧乏人の子たくさんという言葉、町長はご存じだと思うんですが、余りにも豊かになり過ぎて子どもをつくらなくなったというか、できなくなったのが現状でございまして、根本的な解決にはならないような気がするわけでございます。

次にそのまま移らせていただきますけれども、少子高齢化、町長、あと20年後、30年後、自分の姿を思い浮かべていただきますと、先般の大崎議員の質問の時に、笹尾の方が10年早く年をとっていきようなことをおっしゃいましたけど、全体的に高齢化が進んでいるわけですが、笹尾の山、城山、平坦地を探すのが難しいくらい上り坂、下り坂、坂ばかりでございます。そこにどんどん高齢化をしてくる。

ですから私はオレンジバスは反対をさせていただきました。オレンジバスのバス停まで行くのに倒れてしまう。ですからデマンドバスとかオンデマンドバス、よくNHKのテレビを見ておりますと、この番組はオンデマンドで配信していますと出てきます。もしこの演説をお聞きの高齢者の方がいらっしゃったら、デマンドバスやらオンデマンドって何じゃいなと、こう思われるといかんのので、ちょっと説明させていただきます。

デマンドタクシーでいいんです。今、社会福祉協議会とか東員町とか、総務課が所轄している、それから教育委員会の車やと、たて割で車を所有しているかのように思われておりますが、こんな役場の車はみんな共有化したらいい。そして電話一本で玄関までお迎えにあがる。ネオポリスの西4丁目のどなたかが奥の方から役場に行きたい、東員駅まで出たいといったときに、電話一本で、軽乗用車でいいのです、お迎えにあがる。そして役場の玄関まで、駅の乗り場まで、医者の方まで、ドアツードアと言いますね、そこまで乗せて200円、例えばですよ。そしたらバスの100円より値打ちなんです。

オンデマンドで配信された番組、例えば8時15分から朝ドラを見たいなと思っても、8時から宮さん掃除に出ていかんならんで見れない。こんなときにオンデマンドで見ると、宮さん掃除が終わって一服しながら10時から8時15分の番組が見れるんです。

そのようにオンデマンドタクシー、オンデマンドバスという、デマンドバス・タクシーをやる。以前にもフィリピンのジブニーのようなものを考えたかどうかと。それはできませんと、できない理由ばかり述べておられるけれども、オレンジバスとかコミュニティバス、いなべへ行っても菰野へ行っても、どこへ行ってもバスが走っている。まるで金太郎あめを切ったように、どこを切っても同じことをやっている。

それよりも東員町はすごいな。みんなが全国から見に来る。お金を落としに来るぐらいのデマンド方式のバスやタクシー、要請があったら玄関まで迎えに行く。

そして買い物するのに、これから20年後ですよ、考えてみてください。買い物難民がふえてくる。下のスーパーまでよう歩いていかん。大根の1本もぶら下げたらふらふらや。こんなときにちゃんと車で玄関まで送ってくれる。東員町内、ぐるぐる回っても仕方のないバスをタイムリーに、必要なときに、必要な場所へお迎えに上がって送らせていただく。このサービスできないことはない。私はこれをやりたい。

なぜこんなことを焦っているかといいますと、私事で申しわけないけれども、私の父親の代まで生きさせてもらうのに、あと10年ないのです。だから私が議会議会に置いてもらっている間、生かさせていただいている間に、このすばらしいまちづくり、笑顔のあるまちづくりはこれからだと私は思わせていただくわけです。

そして人口が減ってきたと言われるのなら、あの名古屋駅の南側に笹島という昔のJRの貨物置き場があります。あそこに次のオリンピックの時には愛知大学が進出してくる。愛知大学のキャンパスができる。このように決定しました。どういうキャンパスにするかという、世界各国から学生を集めて、あそこを国際交流の一大拠点にするキャンパスにするということをおっしゃられる。

去年の暮れに中国の南京からお坊さんが4～5人、奈良の唐招提寺の遷宮が何か、落慶法要に招待されて、鑑真のルートを訪ねて来られたお坊さんが名古屋へみえまして、その夜、一緒に飯を食おうじゃないかということで呼びいただいた。

その時の通訳に上海から来ている女性でございますが、名古屋大学に留学している女の子がいた。後でカラオケでもやろうということで、名古屋の駅のあたりでカラオケを楽しんで夜11時過ぎ、さあこれで終わろうといったときに、この女の子は星が丘か藤が丘か何か遠いところに、名古屋市内でございますが、宿泊しているらしいのです。そこへ帰るのに地下鉄やバスを乗りかえて約1時間かかるというの

です。私はタクシーのチケットを上げて、中国ではあるかないか知らんけども、この紙切れ1枚で好きなところまで乗っていけるので、車だったら何分かかかるかといったら、15分か20分かかりませんと。それでそのチケットをあげたんですが、お礼の手紙も来ました。

その時に私思いました。ネオポリスから三重交通のエキスプレスのバスに乗ると、乗り換えなしで43分で名古屋駅に着く。名古屋市内におっても小一時間かかる。そしたらその学生たちを、今、ネオポリスの団地や城山の団地の空き家対策で、空き家バンクをつくる何のかんのと言ってみえますけれども、これが40件、50件、60件あるのなら、それを町がかりあげて、その学生をみんな誘致する。

この間、私、三重交通へ行ってまいりました。定期が1年間12万円、1カ月1万円です。5,000円にしてくれということで交渉にいきました。そこらの所長や営業課長では返答できません。恐らく三重交通の社長と本気になって構えますと、あの社長は私の話をわかっていただけると確信をしておりますが、1万円の交通費を5,000円にしてもらって、あとの5,000円は東員町が負担をしてやる。そうすると学生たちは名古屋のへんぴなところで高い場所で住むよりも、交通費がただで環境のよい東員町なら、みんなこっちで住んでくれるだろうと。

そして外人がウヨウヨする。働く人ではないのです。勉強に来ている学生たちがウヨウヨしている。そしたらこの間、教育長が言われた小学校高学年の英語教育や外国語教育、これは生きた教育になる。そして5,000円を負担しろということは、私はただで負担してあげてほしいということを行っているわけではないのです。東員町のそうした社会教育、そして子どもたちの英語教育に、ボランティアで活動参加をしていただくという条件で補助をする。そしてそういう人たちを引っ張ってくる。これこそが東員町きっての企画ではないか、こう思わせていただくわけでございます。

そしてこの英語はわからん、中国語はわからん、お年寄りたちが英語で役場はどこかと聞かれてもわからんのですね。怒るわけにはいきませんので、にこっと笑っている。笑顔のあるまちづくり、私目指しております。にこっと笑ってごまかす。そういうまちでもいいじゃないですか。笑顔のある町、そして生きた英語、生きた外国語を学ぶことができる。

私も外国語学部、イギリス語学科というのを勉強してまいりました。英語はイギリスの英語、アメリカの英語、アメリカでもテキサスとニューヨークでは違う。オーストラリア、ほかへ行っても全然違うんです。日本の英語でいいじゃないか。何

で日本だけがアメリカの英語を教えるんだ。日本の英語。例えば「あなた幸せだね」というのに、「You are happy, and you?」。「and you?」というの「ね」、幸せですねの「ね」。それを学校の先生が教えようとするから、みんな子どもたちはこれは難しいとなってしまうけども、「You are happyね」、それで通じるわけです。

日本の英語、生きた英語を教える。外国語を教える。そして東員町の子がこれからの国際社会で活躍していく場所、こういうものがこれから必要だと思っておりますが、町長、時間がないので簡潔にひとつどのように考えておられるか、お聞かせをいただきたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

高齢化に対する実践的な戦略ということで、いろいろご指導をいただきました。

まず、バスの関係ですか、オレンジバスをやめてデマンド、オンデマンドということで、全部迎えにいったらいいやないかということでございました。できないことないということだそうでございます。

オレンジバスを福祉バスにするかでも私はちゅうちょしている。そんなことは東員町ではできませんということで、今、いろいろと苦労しているわけでございます。できやんことないということなんですけど、お金ではじいてできないことないと言われたと思うんですけど、オレンジバスを廃止して、1件1件タクシーで迎えるということ、私は非常に難しいと思います。今、オレンジバスを年間10万人弱の方が利用してもらっているのですよ。そういうことで、いろいろ教えていただきましたので、これから一生懸命もっともっと勉強させてもらいたいと思います。

そして団地の空き家に愛知大学の笹島にできる大学の学生を、また外国人を空き家にとということでございました。これもいろいろ勉強をさせてもらいました。私どもとしては、今言われたことを一生懸命勉強をさせていただきますので、どうぞご理解をいただきたく思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 中村充男議員。

5番(中村 充男君) ありがとうございます。

一遍、本気で取り組んでいただきまして、一つ例を探してまいりましたが、広島県の広島市は、往復300円タクシーというのをやっております。思いやりタクシーといって、みんなそこらへ行ける。どんなんでも乗っていける。好きなところへ行ける。

そして私がおりました千葉県の柏市の向こう、我孫子というところがあるんですが、ここでは病院の送迎バスや福祉施設のバス、そこらの自動車学校に免許をとりに行っているバス、皆さん、送迎バスがネットワークを組んで、手を挙げたら、この町内の人だれでも乗せていってくれる。

こういうように今や町だけでできない、皆さんにお願いをして協力をして、10人乗りに2人や3人で走っておらんでも、乗せていってもらえるというようなネットワークをつくる。そして東員町の人が、ああこれは東員町に住んでよかったな。やはりこれから若い子も東員町に住む魅力がある。お年寄りも東員町に住んでよかったな、こう思ってもらえるような、少子高齢化に向けて、少子高齢化やからこうや、安心・安全はこうや、言葉はいいんですが、じゃあ高齢化対策をどういうふうにするかということ、もっと具体的に、それは予算でできない、そんなことは言わずに、私は今回こそ、もうこれはチャンスとしますので、チャレンジはチャンスだ。夢がわいてくるということで、一度、真正面から町長、これに取り組んでいただきたい。

あと4年後なんです。もうこの間のオリンピックで帰ってきた人が、次のロシアで行われるオリンピックに向けて練習を始めている。4年後にあそこにキャンパスができるというのですから、今から即やっただく。一挙両得で、何千万円もかけてALTの何のかんのと、そういう何千万円も予算をかけて外国教授陣を小学校や中学校に派遣しておく場合ではない。幾らでも玉が来るのに、その玉をこっちへ引き寄せて上手に使う。

ドイツへ派遣するのが問題やない。東員町にいながらドイツも勉強できる、アメリカも中国もみんな勉強できる。異文化も勉強できて、外国語も学んで、友達も広げて、これからすばらしい国際社会に向けての考え方一つで、東員町の子どもたちがこれからの国際社会の中で活躍してくれるということでございますので、小手先のことでなくて、人のふんどしで相撲を取るわけではありませんけれども、どうか愛知大学のプロジェクトを、ひとつインターネットや何でも引いていただいて、出向いて、研究に研究を重ねていただいて、東員町のこういう立地はリッチに

つながる、素晴らしい。三重県は遠いと思っているけれども、近くの愛知県名古屋市内から通っているよりも、時間的にも交通のアクセスもいいということで理解を
していただいて、ひとつ真っ正面に取り組んで、この東員町を助けていただきたい。
よろしく願いをいたします。

これで質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。